

認知症予防や体操

清須げんき大学 1期生30人卒業

高齢者が健康について学ぶ「清須市民げんき大学」の卒業式が8日、清須市一場の愛知医療学院短大であった。昨年6月に入学し、健康や認知症予防の知識を学び、寝たきりにならないための体力作りにも励んできた60代から80代の1期生30人が全員そろって卒業した。

げんき大学は、リハビリ専門家の養成に特化した同短大と清須市の連携事業。市は、卒業した高齢者が地域で介護予防などのリーダーとして活動す



卒業生を代表して卒業証書を受けた青山禧子さん—清須市一場の愛知医療学院短大で

学長が、1期生を代表して青山禧子さん(80)に卒業証書を手渡した。舟橋学長は「皆さんは脳を活性化させ、筋力アップの体操をし、入学式から倍ぐらい元気になられた」と笑わせ、「学んだことを他の住民に伝え、地域のリーダーになってほしい」と祝辞を述べた。

最高齢の森川たづ子さん(81)は、入学前から地域で高齢者のサロン「スイトピー」を運営しており「学んだことをみんなに伝え、認知症予防などに生かしたい」と元気に話した。

また柴田葵さん(80)は「学んだことを日常生活に取り入れ、介護を受ける期間をできるだけ短くしたい。新しく仲間もできたら、健康第一で『ピンピンコロリ』(最後まで元気に生きる例え)を目指します」と笑顔で話した。

げんき大学では、6月入学の2期生を募集している。対象は65歳以上の市内在住者で、定員20人。問い合わせは市高齢福祉課(052・400・2911)。

【長倉正知】